

人に何かを教えてもらうつていうのは面白い

語り手 植田渉太（高校五期生 ICT関連） 聞き手 野道玲奈

*

在学時の思い出

―ご卒業されたのが二〇一二年ですよ。

十二年なかなか。

―あれから立守いらつしやったこととか、ありますか？

大学、高校卒業してすぐの時とかにあったかな。大学入って、友達と遊びに行ったりはして。いつやったかな、ちょっと前に仕事の関係で一回お邪魔しました。

―仕事。あ、ICT関係のですね。

そうそう、校務支援システムっていう、学校の先生が使う、生徒の出欠とか成績とか、そういったものを集計するシステムを今営業してて。公立の高校行くことがあって、ついでに近くを通るからお邪魔しました。

俺らの時が、中学校の一期生だから。まだ中学入学したら中二、中三の先輩がいない状態であ。そして高校に上がるタイミングで。俺らの時は、FSC（フロンティアサイエンスコース）っていう名前やつてんだけど、それに縁があつて入ることになって。

―FT（フロンティア）、FSCのコースって、めちゃめちゃ賢い印象はあります。

でも、高校の時なんて。せやなあ。俺らの時はそのアカデメイアか、FSCしかなかったから。どっちかっていうと、そのアカデメイアのやつと仲良くて。もう帰り道とかよく遊びに行ったりしたかな。

―ふふ、いいですね。帰り道、どんなことされてたんですか？

朝は歩いて学校まで来て、帰りはチャリ通のやつに荷物を持ってもらつて、一緒に帰つてな。駅までの道の途中、右に逸れたらバスケットがある公園があつて。そこで友達とよくバスケットして。あとは友達んち遊びに行つたりと。

―ええ、めっちゃいいですね。高校の時は帰宅部だったんですか？

高一の最初だけ硬式テニス部入つてんだけど。夏休み明けぐらいに、色々あつてやめて。

―あ、そうなんですね。

俺らの時は、硬式テニス部はできたばかりで、中学の最初の代やら、中一の時、硬式テニス部はなかった。中二の時に外部でテニスやつてたやつらが（テニス部を）作つて。テニスコートが俺らの時は四面しかなかった。

―十五年前だと結構設備が違うんですね。

そう、俺らがいる時は、アイリスグラウンドが新しくできて。卒業してから行ったら中庭にバスケのリングがあつて。「なにこれ。こんな俺らの時はなかった。ずるい。」って先生に言つてたなあ。

待つて、これ何話せばいいんやつけ。なんかその、仕事で行つた時に中学の職員室に、山田先生と吉川先生と、井上先生つて国語の先生いらつしやるんやけど。その先生に「今こういう企画（聞き書き二十年史）やつてるからやつてくれ」って言われて、「やつときます」って言つたら、「いや、ここで！」って言われて、その場でフォームに入力したから。いまいち趣旨をわからないままやつてんねんけど。

―言葉にするのが難しいんですけど、日常生活から、いろんなエピソードに触れてもらいたいなとらしくて。

なるほどな、思い出したらいいんやな。中一の時に立守入ったけど、俺ほんまは、ぶっちゃけて言うとお、公立の中学校に行きたかったんよ。

昔、小学校五年生ぐらいまで大阪に住んでいて。通ってた大阪の小学校では、みんな中学受験の塾に通ってた。親がお前も通えみたいに言われて入れられて、渋々、塾に入って。中学受験どこに行くかってなった時に、俺は別に小学校のやつらと一緒に公立に行けたらいいって思ってた。でも親に、せっかくここまで受験勉強してたんやから、どこかとりあえず受けてみるって言われて。行きたいところがなかったけど。新しくできる学校で校舎綺麗そうやし、立守でいいやつっていう感じで受験して。面接あるって俺知らへんくて。一般入試の方。

ーへえ、一般でもその時は面接があったんですね。

保護者と一緒の面接で、父親と一緒に行ったんやけど、内容はあんま覚えてないけど、唯一覚えてんのが、将来の夢はなんですか。って言われて。ほんまになんもなかったから、「社長です」って言って。で、どんな社長がいいですかって聞かれて。いや、社長ならなんでもいいですみたいなことを言って、なんか謎に受かったのは覚えてる。

*

中学での出会い

中学校何してたかって言われたら、ほんまに特に何もしてない。

中三の時にニュージーランドでホームステイをしたんよ。ニュージーランドは一人家庭やって。俺が行ったところの家族は、すごい、いい家族やって。子供たちとずっと一緒に遊んで、楽しい思い出になった。日本帰ってきてから、Facebookで（ホストファミリーを）見つけて友達になってんけど。FacebookとInstagramって連携してるやんか。インスタ始めたタイミングで（インスタも）フォロー

ーはしてるぐらいの関係やって。俺、大学出てから一年間就職せずに、遊んでたんよ。で、四か月間だけオーストラリアに留学に行くっていうのをなんとなく決めて、遊びに行つて、オーストラリアに行つて、「着いたー」みたいな投稿をインスタにあげたら。当時、高校生やったホストファミリーのお姉ちゃんが、「ニュージーランドに寄つてよ。」って連絡くれて。じゃあ、帰国する前にちよつと寄ろうっていうので、五日間か六日間ぐらいかな。ニュージーランドに行くことになって。空港までも迎えに来てくれて。もうその期間中ずっと家に泊めてくれて、ご飯とかも全部出してくれるし。お金払おうとしたら、いいよ、いいよ、家族からお金なんて貰わないよって言ってくれて。すごい良い出会いだったかな。

*

些細な経験が大学進学に

ーなんで教育大学を目指されたんですか？

高二、高三の時の担任の先生がな。すごい熱血な先生で、その先生との高二の二者面談で、ほんまに俺やりたいこと何もないし立命館でいいんやけどなって伝えようと思つた。だけど、日頃から将来のことを話してる先生の前で夢は特にないですって言ったら絶対怒られるなと思つた。そこで、当時行つた個別指導の塾の先生に「先生の夢なに？」って聞いたら学校の先生って言われた事があって、とりあえずそれでいいか、くらののりで、面談の時に「先生になろうと思います」みたいなこと言ってしまった。そしたら、じゃあお前志望校は、京教（京都教育大学）とかその辺かって言われて。はいとは言つたけど、「キョウキョウ」ってなんやろうっていう感じやって。それで、俺の志望は京教ってまず決まった。

―なるほど…。

いや、別に俺もそんなに先生になりたいって思ってたわけじゃないねんけど、アカデメイアのやつとは仲良くて。FSCとアカデメイアやったら、FSCの方が授業の進度は早かってん。定期テストとかでも、一個前の試験範囲をアカデメイアの子達はやってて。別にあんま自分のテスト勉強っていうのもしいひんかったけど、テスト期間になったらアカデメイアのやつらに、勉強を教えてて。それが結構楽しくって。ほんまに先生なってもいいかなみたいな感じで、ちゃんと教育大目指すようになって、ちよつと運よく受かって、京教に入れた。

先生になるつもりで入ったんやけど、大学一回生の夏に、キャンプ実習っていう四泊五日のキャンプの授業があつて。大学一回生が六人ぐらの班を作って、三、四回生の先輩たちがスタッフとして、班に一人つくみたいな。俺も選択科目の中の一つやから、別に行かんでもよかったんやけど、なんとなく行ってみて。そしたら、思ったより楽しくて。指導教官に会いに行つて、来年以降スタッフやりたいですって言つて。その団体にもう一回生の時から入つて、四年。四年間ずっとそんなことをやってた。

―教育大学でもそういう授業があるんですね。

野外教育っていう分野で、それは。体育科の内容なんやけど、俺、数学科やったんやけどね、体育科の先生の授業で、そういう野外教育っていうのがあつて。野外教育研究室みたいな研究室にも入つて。そういうことやってたの。

*

就職までの経緯

公立の高校で働いたら、みんながみんな大学に行くわけじゃないわけやん。高卒で就職する子とかもいるし。でも俺は就職の事を全然知らない。就職活動っていうものがなんなのか、何も知らないまま先生になって、公立の先生になった時にそういう話を生徒にできるかっていったら、できへんって思つて。じゃあ一回自分で就職してみるかって思つて。卒業してから先生にならずに一回一般企業に行こうっていうのを決めて。その流れで、他になんかやってないことないかなと思つて。留学行つてみたかったなって思つて。で、留学を決めた。

―すごいですね…！

親も放任主義やったから、俺、来年ちよつと海外行つてくるわって言ったら、ふーん、ぐらいいの反応でほつといってくれたから。それで、留学に行き、先生にならずに、俺もう転職二回してるんだけど。そういう状況の中で働きながら、同じ大学の同期とかと飲みに行ったりもするけんやけど、「先生どう？」って尋ねたら、まあ大変そうなんよな。土曜日の夜飲みに行つて、「何してた？」みたいな言ったら、いや、授業の準備してたみたいな。すごいな先生って思つて、でもなんかどうなんって思つて。サラリーマンを俺はその時、一、二年してる中で、定時がちゃんと決まつて、時間過ぎたら残業代も出るし。俺の会社ではサービス残業とか特になかったし。休みの日は休みやった。で、今のその学校の先生の働き方ってどうなん、みたいな感じのこと思つて、それで、先生に、俺、今からなれんのかなっていう疑問がまず生まれたのと、先生の今の働き方を俺はどうにかしたいなって思つて。今まだ二年目なんやけど、教育業界のIT会社に入つて、今、働いてます。

*

留学生生活で得た経験

―四か月の留学の中で、ホストファミリーの方以外との出会いとか、印象に残る出来事とかつてありましたか？

四か月のうちの最初の二ヶ月は、語学学校に行ってたんよ。英語学校に行って、なおかつホームステイがある。で、(ホームステイ先は)ホームステイを常に二人受け入れてて、日本人の女の子がもう一人居たんだけど、最初の一ヶ月いた日本人の女の子は、もう部屋にこもってばかり、全然喋らへんタイプの子やって。後半一ヶ月は、別の日本人のよう話す女の子が入ってきて、一緒にホストファミリーにお好み焼き作ったり、なんやかんや色々してた。で、後半二ヶ月は学校もないし、ホームステイが終わるから、適当なシェアハウスを借りて。バイトでちよつとお金稼ぎながら生活する。あとは、あっちって年越しが夏やねんな。みんなビーチに集まって、花火見ながら年を越すっていうのが、イベントみたいになってて。年越しを友達とイエーイってやってたら、たまたま隣にいた全然知らんペルー人の姉弟と一緒に飲んで、そのまま仲良くなって。今からうちで飲もうぜ、みたいに誘われて、その兄弟の家に行つて。めっちゃ仲良くなって、結構残り二ヶ月はそのペルー人姉弟と遊んだ。

―私も中三の時にカナダに行つて。このホストファミリーのこともよくしてもらったんですけど。なかなか私は英語がほんとできないので、声をかける勇気が出なくて。

でもなんかな、俺、海外行つて、四か月で英語喋れるようになったかって言ったら、全然変わってないね。多分、ちゃんと勉強もしなかったし。でも、なんかもう目を見て、とりあえず言いたいことを口に出し続けたら、会話って案外成り立つっていうことを学んだから。

だから、あっちでタイ人のやつとも仲良くなってんだけど、多分一番遊んだのがそいつなんかな。仲良くなって、ご飯とかも行つて。その人は車も持ってるし、あっちで働いてるから、結構色々連れて行つてくれて。日本に遊びに来る時は結構連絡くれて、二回ぐらい会ったかな。去年も一回会ったかな。日本来たら一緒に飲みに行つて。

―今でも、そんな関わりがあるのすごいですね。

うん、せやな。なかなかない経験はできたかなって思うな。単純に楽しかったな。全然知らん価値観と触れ合うわけやから。日本帰ってきてから、人に寛容になった気がする。自分ではわからんけど。

―いろんな人がいますもんね。

そう色んな人がいるから、別になんか変わったなっていう人がいても、まあまあそういう人もいるやろうぐらいには思うようになった。なんか気が長くなった気がする。怒ったりしないかな、今は。俺はあんまり緊張するようなタイプじゃないから緊張とかはなかったけど、留学直前には行くのめんどくせえとか思ってたけど、行くまではな。

*

仕事内容について

―緊張されないってことは、営業の時にいろんな人の前でプレゼンとかそういうのも大丈夫なんですか？

プレゼンあるけど、特に何も緊張はしないかな。多分それは昔からやと思う。なんでかっていわれたらあんまりわからんけど。

―出欠管理のやつって、システムを組んでるわけとかじゃなくて、営業ですよ。

そうそう、営業で、こういうの導入しませんかっていう立場。ちょっとシステムが、新しい商品がちょうど出るところやから、まだそんなに自分で何かを提案したりっていうのはしてへんけど、お客さんとかから、なんかちよつとここをこういう風にカスタマイズしたいんやけどっていう依頼とか受けたら、そういったものの見積もりとかいうのはするし。システムソフト・アプリとかも一応、商材ではあるから、そういったもののプレゼンとか。

—営業ってどんな感じで言いに行くっていうか、するんですか？

既存のお客さんからは勝手に問い合わせが来たりする。たまにつなぎでご挨拶行ったりはするけど、新規はやっぱ相手が高校って明確になってるから。電話かけて、よかつたら少しでもお時間もらえませんかって、アポ取ったりする。あとは学校向けの展示会みたいなのがあつて、学校現場に関わる商材を取り扱ってる会社が、うちはこんなシステムとかを売ってますよみたいなのをかを展示している。そこに先生たちが来て、商材の展示について説明を受けるような場がある。僕らはそこに商材を出して、来たお客さん、先生たちやけど、よかつたらちよつと今度改めてお時間もらっていいですか、みたいに後日、会う約束を取ったりする。

*

大学生活での学び

—じゃあ大学の方で、授業って他にどういのがあつたんですか？

教育系の大学やから、もうほんまに教育関係やな。やっぱ今の学校現場の生徒のいじめとかそういう問題とかにどう向き合うかとかっていう授業やつたり。そういう感じだったかな。

—普通に学ぶことってあるんですか。それこそ英語とか、数学とか。

あー、一回生の時は英語の基本的な授業はあつたし。数学は今高校生で習うような数学じゃなくて、大学数学っていう、数字が出てこない数学。

—文字だけってことですか？

そうそうそう。中高六年間、別に授業聞いてたらなんとなくふんつて分かつてたんやけど、大学に入って初めて授業聞いて全く分からへんくなつて。概念じゃないけど、なんで数字が一から始まつて一、二、三、四って続くのかみたいになつていうのを定めてるものがあるんだけど。そういう話やつたり。

—数学ってほんとに研究って感じでもんね。大学にまで行くと。

そやな。研究やな。数学の分野において新しいことを発見するっていうのはだいぶ難しいらしいから。

—研究し尽くされてるみたいな。

そう、逆に新しいことを何か数学で発見したら、それだけで世界的な賞を取れるらしいから。だから、もうすでにある数学書を読んで、頑張つて理解しようねっていう。今、理系？ 文系？

—理系です。

理系、何になりたいん？

—私は立命館の情報理工学部で、医療系に関わりたくて医療機器作るよなところに行きたいなと思ってるので。

いいと思うよ。そういうのをやりたいってすでに思ってるのが。

*

当時は気が付かなかった大切なこと

高校、何してたんやろうな。でも、あんまりいい生徒じゃなかったけど。けど、先生ってやっぱりちゃんと面倒を見てくれるやんか、っていうのを、大人になってからありがたいことをされてたなって思う。

―高校の時って、趣味みたいなものってなにかあったんですか？

趣味っていう趣味があんまなくて、あれやけど、ロックフェスに初めて高二かなんかの時に行って。まあでも、高校の時なんか、今思えばもつと色々やっていたらよかったなと思う。

―いろいろ、ですか？

色々っていうと難しいよな。でも、なんかな。ちゃんと椅子に座っていたら何か知識を与えてもらえるっていう場が、大人になったらないんだよな。それが今になってから思ったら、面白いんだよな、そういうのって思う。この間、ちよつとしたセミナーみたいなものに行ってきた、仕事の関係で。久しぶりに椅子に座って何かを教えられるっていう経験をして、面白いなっていう、知識を与えてもらうっていうのは。大人になったら基本、本を読んで自分で学ぶとかしかないから、人に何かを教えるもらうっていうのは面白いっていうのを、最近この歳になってやっと実感した。授業ちゃんと聞いといたらよかったな。会社の商品とかで、高校生が受けるような授業の動画とかがあったりするんねんけど、それをなんかぼーっと見てたら、ああ世界史、面白そう、みたいな思ったりするようになった。世界史でも日本史でもなんでも多分面白いんだと思う。今やったら。（実際のアプリ画面を見ながら）実際こういう感じで音声流れてんねんけど、こういうのをぼーっと眺めてたら、面白いなっていう。ふふ。当時は何も思わなくても。

そう。なくなった時に気づく何かっていうのは、多分ほんまにあるんやなって。なんか我ながらおっさん臭い。卒業式は別にあんま思い出な

かったから、終わったかって感じだったけど、あ、教室に次なんか集まってなんかすることもないんだよな、みたいな。大学って取ってる授業バラバラやし、教室行ったら絶対同じメンバーがいるっていうのがもないんやっていう。そう思ったら、卒業してから、ああいう機会はもうないのかって思ったりした。

え、プログラムとかを組んだりしたいの？ 開発する側になりたい？

―そこまで考えてはないんですけど、どちらかというとプログラムの方が興味はあるかなって感じで。

多分な。就職する上で、俺、実際その分野の就職とかしてたわけじゃないんやけど、例えば、俺の従兄弟、今ゲーム作ってんねん。ゲーム会社で。もうそういう風に決まってるんやったら、大学生になってからとかでいいんやけど、なんか、ちよつと自分で作ってみたいとか、独学でやってみたいするだけでも。多分、やってみて初めて見えることっていうのは絶対にあるから。それでやってみて、おもんないって思ったら、別にやめたいいいし、面白いなっていうんやったら、それをもうちよつと自分で勉強してみてもいい。しかもそれでその道に進みたいって思ったら、実際に自分は学生の時にこういうこと自分でやってみましたみたいな、こういうアプリを開発してみましたとか、そういうのを言えるだけで、やっぱり他の学生に比べたら多少の差はつくと思うから。そういうやりたいことがあるんやったら、早いうちからやってみると、案外、将来楽になるかもしれない。

―なるほど。長い時間お話いただいて、ありがとうございました！

【感想】



左：語り手 植田渉太さん
右：聞き手 野道玲奈

今回の聞き書きを通して、一つの仕事や人生の選択の裏には、その人なりの考えや経験が積み重なっていることを実感しました。特別な転機だけでなく、日々の中の小さな決断が今を形づくっているのだと感じました。また、いただいたアドバイスをきちんと頭に入れて自分のこれからを見つめ直すきっかけにしていきたいと思っています。